

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Markers expressing reason appearing in refusal discourse of Korean and Japanese : On the uchi, soto, yoso category

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 任, 炫樹, YIM, Hyun soo メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002120

日韓断り談話に見られる理由表現マーカ―

―ウチ・ソト・ヨソという観点から―

任 炫 樹

(名古屋大学大学院生)

キーワード

断り談話, 日本語と韓国語, 理由表現マーカ―, ウチ・ソト・ヨソ, 理由表現マーカ―中止文

要 旨

本稿の目的は、日本語と韓国語の断り談話において理由表現マーカ―がどのように現れるかを明らかにすることにある。ロールプレイ調査から得られた資料を基にして、理由表現マーカ―を分析した結果、次の3点が検証された。(1) 両言語の理由表現マーカ―の使用頻度には、後統節の省略ができるかどうかということが関係している。(2) 日本語ではウチ・ソト・ヨソ意識が理由表現マーカ―の使用に明確に反映されるのに対して、韓国語ではそのような意識の反映が日本語ほど顕著ではない。(3) 韓国語では、後統節が省略された「理由表現マーカ―中止文」を用いるだけで聞き手に対する丁寧さや配慮を示すことができるが、日本語では必ずしもそうではなく、どのような理由表現マーカ―を用いるか、どのような内容で断り談話が構成されるかが問題になる。

1. はじめに

従来の断り談話に関する研究は、中間言語語用論 (Interlanguage Pragmatics) の立場から日本語母語話者と日本語学習者との断り言語行動を比較し、日本語学習者の断りストラテジーの問題点や相違点を取り上げるものが多かった (生駒・志村1993, 熊井1993, 藤森1995, ラオハブラナキット1997)。しかし、日本語における断り談話の特徴をより明確に把握するには、日本語を他言語と比較するアプローチも有効であろう。

本稿では、日本語と韓国語の断り談話を比較し、理由表現の末尾がどのように表されるかを考察する。理由表現は、不可表現 (無理・駄目・いけない等) と共に断り談話を構成するもっとも使用頻度の高い表現であるが、不可表現と違って、断る旨を間接的に伝達する役割を果たす。しかし、同じ内容の理由表現であっても、末尾にどのようなマーカ―が付くかによって、間接化の度合いや相手に与える丁寧度は異なると考えられる。日本語の理由表現を、末尾に現れる形式によって「ノデ型, カラ型, シ型, テ型, ケド型, 命題型」に、韓国語の理由表現を同じく末尾に現れる形式によって「tt'aemune型, nikka型, go型, seo型, neunde型, 命題型」に分けて分析を行う (「命題型」は接続表現を含まないものを指す)。そして、それぞれの型を特徴付ける末尾の形式を理由表現マーカ―と呼ぶことにする。

断り談話における日本語の理由表現マーカ―を取り上げた研究に藤森 (1995) がある。藤森は日

本語学習者と日本語母語話者を対象に、断り行為を表す発話の節末及び文末に見られる表示マーカ―の異同を調査している。それによれば、日本語学習者は親と疎、目下と目上を、各々「カラ」「ノデ」の2つで区別する傾向が強いが、日本語母語話者は親しい相手には「カラ」、目上に対しては「ノデ」を圧倒的に多く使用し、疎と目下に対しては「カラ」「ノデ」以外の多様なマーカ―を用いる傾向が見られたという。

本稿では、藤森が注目しなかったウチ・ソト・ヨソというカテゴリーの違いを軸にして理由表現マーカ―を観察する。ウチ・ソト・ヨソという区分を設けて断り談話を考察すれば、ウチ・ソト・ヨソの差が断り談話の理由表現マーカ―にどう反映されるか、また日韓両言語の間で反映の仕方がどう異なるかが明らかになるであろう。

2. 調査方法と研究の枠組み

言語行動について調査する場合は従来、談話完成テスト (Discourse Completion Test) を用いるのが一般的であった (Beebe, Takahashi&Uliss-Weltz 1990, 生駒・志村1993, 藤森1995, 金1999, 伊藤2002)。これには短期間のうちに大量のデータが得られるという長所があるものの、答えが書き言葉になりがちになる短所もある。

もっとも自然な断り談話の資料を手に入れるには、実際の会話を調査対象とするのが一番であろう。しかし、日常会話の中から「申し出―断り」談話を採集するのは簡単なことではない。時間をかけてそれを集めたとしても、申し出の内容の軽重、申し出が行われる状況、申し出をする者などにばらつきがあり、本稿のように2ヶ国語を対照する研究にとってそのような資料収集の方法は必ずしも最適であるとは言えない。

以上の理由により、本稿では人物と状況を設定してロールプレイ調査を行うことにして、それを2001年の8月から11月にわたって実施した。インフォーマントはモノリンガルである日本語母語話者30人 (男女15人ずつ、名古屋大学の学部生・大学院生) と韓国語母語話者30人 (男女15人ずつ、韓国中央大学校と延世大学校の学部生・大学院生) である。採集された言語は日本語と韓国語であり、日本語母語話者のデータは日本 (名古屋) で収集し、韓国語母語話者のデータは韓国 (ソウル) で収集した。1人当たりのロールプレイ所要時間は約20分から40分かかった。なお、インフォーマントの年齢は満19才～27才と限定している。日本語母語話者の応答を導く働きかけの役割 (申し出る者) は日本人女性2人 (名古屋大学大学院生) が担当し、韓国語母語話者の応答を導く働きかけの役割は筆者 (女性) が担当した。働きかける者にはロールカードの内容に基づき、親 (以下、ウチI)、親しい友達 (以下、ウチII)、指導教官 (以下、ソト)、セールスマン (以下、ヨソ) の役を演じてもらった¹。インフォーマントには、申し出の内容が変わるたびに演じる人物を知らせるカードを提示した。働きかける者とインフォーマントに渡されたロールカードの内容は、以下の通りである。

表1 食事の勧誘（ウチⅠ・ウチⅡ・ソト）

働きかける者のカード	あなたは〇〇さんの____です。〇〇さんを食事に誘います。一度断られても、お金は自分が出すから一緒に行こうとまた誘います。
インフォーマントのカード	あなたは、一緒にご飯を食べに行かないかと____から誘われます。あなたは、まだ食事をすましていないし、特に用事があるわけでもありませんが、一緒に行きたくありません。

（ロールカードの〇〇にはインフォーマントの名前が入り、____には、親・親しい同級生・指導教官が入る。以下、表2も同様である。）

表2 翻訳の勧め（ウチⅠ・ウチⅡ・ソト）

働きかける者のカード	あなたは〇〇さんの____です。アルバイトを探している〇〇さんのために、A4用紙一枚千円の翻訳の仕事があるからしてみないかと勧めます。一度断られても、家でできるからといって再度勧めます。
インフォーマントのカード	アルバイトを探しているあなたは、____から翻訳の仕事を勧められます。しかしあなたは、その仕事はできないわけではないが、条件がよくないと感じます。家でできるからと言われても、それを引き受けたくありません。

表3 英会話カセット・テープ購入の勧誘（ヨソ）

働きかける者のカード	あなたはセールスマンです。英会話のカセットテープを買わないかと通りすがりの人に勧めます。一度断られても、それが最新式の学習テープだからと言って購入を再度勧めます。
インフォーマントのカード	あなたは道で出会ったセールスマンから英会話テープを購入するように勧められます。しかしあなたは、英会話のカセットテープを家に持っています。だから、買う必要はないと感じています。最新式の学習テープだと言われても、買う気がしません。

本稿におけるロールプレイの設定はウチ・ソト・ヨソ²というカテゴリーを導入したため、調査を行う際に次のような問題点や制約が存在した。1) 働きかけをする1人の者が4種類の異なる役割を受けもつ。2) 働きかける者はいずれも女性であったので、インフォーマントが想定した人物が男性である場合、インフォーマントは相手の女性を男性に見立てて話さなければならない（ウチⅠ場面においては全員のインフォーマントが母親を想定していたが、インフォーマントが男性の場合、ウチⅡ場面においてはすべて男性を想定していた）。3) 働きかける者とインフォーマントが同性の場合と異性の場合とで調査結果に差が出るかもしれない。このような問題点や制約を改善するため、次のような方策を講じて、ロールプレイの会話を実際の会話にできるだけ近づける工夫をした。

まず、ロールプレイをする前に、筆者はインフォーマントにロールカードの説明をした上で、普段使っている表現をできるだけ使用するように要請した。次に、インフォーマントが親・親しい同級生・指導教官に何と呼ばれているか、外国語では何語に自信があるかなどをあらかじめ聞いておいた。ロールプレイ後には、インフォーマントがロールプレイをするのに困ったかどうかを尋ねた。その結果、ロールプレイの遂行に困難を感じたインフォーマントはいなかったことが判明した。

本論に入る前に、記号の説明、発話の単位（ターン）、分析の対象とする断り発話について説明しなければならない。以下の論述において、ロールプレイから得られたいくつかの会話を引用することになるが、そこで使用する記号は次の通りである。

日本語の発話末[。] 韓国語の発話末[.] 驚き[!] 上昇イントネーション[?] 短い音[,] 長音[ー] 言いさす文[…] 理由表現マーカー[___あるいは□] 相手のあいづち[()] 非言語情報[{ }] 短いポーズ[#] 断り発話[⇒] 強調する部分[___あるいは___] 働きかける者の記号[H] 日本語母語話者のインフォーマント記号[J 01～J 30] 日本の男性[J M] 日本の女性[J F] 韓国語母語話者のインフォーマント記号[K 01～K 30] 韓国の男性[K M] 韓国の女性[K F] 息継ぎの部分は1文字あける。韓国語の場合は表記法により、基本的に分かち書きをしておく。これは必ずしも息継ぎの部分の意味しない。その代わりに日本語訳は息継ぎの部分に1文字あける。プライバシーの保護のため、インフォーマントの名前を〇〇と表記する。

次に、発話の単位であるターンについて説明しておく。本稿では、話者が話を始めてからそれを締めくくるまでを1つのターンとみなす。また、何らかの理由で発話が途中で中断され、話者交替が起こった場合もそれを1つのターンとして扱う。このことを事例に即して説明する。

例1

H：〇〇 最近駅前に寿司屋ができたんだって 今日晩御飯そこ行って食べない？

1⇒J M20：え！ かあさんと行きたくないよ。

H：え！ せっかく私が奢ってあげようと思ってるのに…

2⇒J M20：いいよべつに 恥ずかしい。

食事の勧誘を断るターン1とターン2の発話が断り発話にあたる。つまり、J M20の「え！ かあさんと行きたくないよ。」と「いいよべつに 恥ずかしい。」が各々1つのターンになっていて、例1の断りターン数は全部で2つになるということになる。

続いて、考察の対象とするものについて述べておく。断り発話にはさまざまなパターンがある。次の例2のように理由表現と不可表現とからなる場合もあれば、一方を欠いている場合もあるが、本稿で考察の対象とするのは理由表現だけである。

例2

H：うんー でも 内容簡単だしー すぐに家でできると思うんだけど…

⇒J M26：あ、他のバイトが忙しいんで 少し厳しいと思います。

(理由表現)

(不可表現)

3. 理由表現マーカ－の型と使用頻度

3.1. 理由表現マーカ－の型

今回の資料を分析した結果、断りの理由表明をする際には次のような理由表現マーカ－が用いられることが分かった。それらをまとめてみると、表4と表5の通りになる。

表4 日本語の理由表現マーカ－の型³

型	例
ノデ型	あ、ちょっと用事がある <u>んで</u> 失礼します。
カラ型	今はそんなにお腹減ってない <u>から</u> 今度にしようか。
シ型	えーでもーいいや 面倒くさい <u>し</u> やることいっぱいある <u>し</u> うんー今度行こう。
テ型	ちょっと 用事があ <u>って</u> あー無理ですねー。
ケド型	お金もらうほどに働きをする自信は {笑い} あんまりない <u>んですけど</u> …
命題型	私家に英会話の教材もっている <u>んですよ</u> 。

表5 韓国語の理由表現マーカ－の型⁴

型	例
때문에型 (tt'aemune)	친구하구 중요한 약속이기 <u>때문에</u> 오늘 안 될 것 같네. (chinguhagu jungyohan yaksokigi tt'aemune oneul an doel geos ganne. : 友達と重要な約束がある <u>んで</u> 今日は駄目だね。)
니까型 (nikka)	나가기 싫으 <u>니까</u> 집에 있을게. (nagagi sirunikka jibe isseulkke. : 出かけたくない <u>から</u> 家にいるよ。)
고 ⁵ 型 (go(gu))	아 그냥 엄마 별로 조건도 안 좋은 거 같 <u>구</u> 나 아이 학교에서 공부할 것도 많 <u>구</u> 그냥 다음에 한 <u>다구</u> 그 사람한테 엄마가 말 <u>해요</u> . (a geunyang eomma byeolro jogeondo an joen geo gas <u>gu</u> na ai hakkyoeseo gonbuhul keosdo mang <u>u</u> geunyang daeume handag <u>u</u> geu saramhante eommag <u>a</u> malhaeyo. : あ お母さん あまり条件もよくないみたい <u>だし</u> 私学校で勉強することも多い <u>し</u> また今度にするってその人にお母さんが言 <u>ってください</u> 。)
서型 (seo)	언어에 별로 자신이 없 <u>어서</u> 하면 욕 먹을 테 <u>니까</u> 나는 안 할 <u>래요</u> . (eoneoe byeolro jasini eop'sseoseo hamyeon yong meogeul tenikka naneun an halraeyo. : 外国語があまり得意じゃなく <u>て</u> 私がしたら相手にき <u>っと</u> 何か言われるから私はし <u>ません</u> 。)
는데型 (neunde)	아우ー나 영어는 못 하 <u>는데</u> … (au-na yeongeoneun mo taneunde… : あー 私英語は得意じゃない <u>けど</u> …)
命題型	너무 싸 <u>다</u> . (neomu ssada. : あまりにも安 <u>い</u> 。)

3.2. 理由表現マーカ－の使用頻度

今回の調査では、日本語の断り談話データに292個の理由表現マーカ－が見られ、韓国語の断り

談話データには288個の理由表現マーカーが見られた。理由表現マーカーの型ごとに使用頻度を表すと、表6のようになる⁶。なお、次の例3のように1つのターンに複数の理由表現マーカーが見られる場合、各々を1つの理由表現マーカーとして数えた。

例3

H: ○○さん 英語の翻訳の仕事がありますけど やってみませんか?
 ⇒ J F 10: うんー 翻訳は#翻訳はやっぱり 慣れてない しー 時間もかかっちゃう から うんーちょっと無理かなー。

表6 日韓の理由表現マーカーの使用内訳

日本語	ノデ型	カラ型	シ型	テ型	ケド型	命題型	合計
	106 36.3%	69 23.6%	27 9.2%	5 1.7%	17 5.8%	68 23.3%	292 100%
韓国語	tt'aemune 型	nikka 型	go 型	seo 型	neunde 型	命題型	合計
	10 3.5%	9 3.1%	57 19.8%	43 14.9%	105 36.5%	64 22.2%	288 100%

(四捨五入のため合計が100%にならない場合もある。以下の表、図においても同様。)

日本語の場合、多く使われる理由表現は「ノデ型」「カラ型」「命題型」であり、「シ型」と「ケド型」の使用はやや少なく、「テ型」の使用はほとんど見られない。一方、韓国語の場合、「neunde 型」の使用が圧倒的に多く、次いで「命題型」「go 型」「seo 型」が多く用いられている。「tt'aemune 型」「nikka 型」の使用はほとんど見られない。

以上の結果は、以下のようにまとめられる。

- (1) 断りの原因・理由を直接に示す「命題型」は両言語においてよく使われる。
- (2) 断りの原因・理由を並列するとき用いるマーカー（日本語の「シ型」・韓国語の「go 型」）は、日本語にはあまり見られないが、韓国語にはよく見られる。
- (3) 日本語の断り談話では「ノデ型」「カラ型」が好まれ、断りの原因・理由を和らげる「ケド型」はあまり使われない。
- (4) 韓国語の断り談話では「tt'aemune 型」「nikka 型」の使用頻度はかなり低いですが、断りの原因・理由を和らげる「neunde 型」の使用頻度は高い。

3.3. 使用頻度にかかわる要因

ここでは、3.2. のまとめの中の(3)と(4)に注目し、使用頻度の差にかかわる要因について考えてみる。日本語の「ノデ」「カラ」は、原因・理由を示す接続助詞である。韓国語の「tt'aemune」「nikka」も同じである。にもかかわらず、日本語の断り談話では「ノデ型」「カラ型」がよく用いられ、韓国語の断り談話では「tt'aemune 型」「nikka 型」がほとんど用いられない理由は何であろうか。

これには、接続助詞で終わる言いさす文（以下、理由表現マーカ―中止文⁷⁾）がなんらかの関係を持つと考えられる。そこで、言い切る文である命題型を除いた5つの型の理由表現マーカ―中止文の使用頻度を調査してみた。その結果を表7に示す。

表7 日韓の理由表現マーカ―中止文の使用内訳⁸⁾

	ノデ型中止	カラ型中止	シ型中止	テ型中止	ケド型中止	合計
日本語	17 27.9%	20 32.8%	8 13.1%	2 3.3%	14 23%	61 100%
	tt'aemune 型中止	nikka 型中止	go 型中止	seo 型中止	neunde 型中止	合計
韓国語	0 0%	0 0%	7 8.1%	6 7.0%	73 84.9%	86 100%

日本語の場合、全61例の理由表現マーカ―中止文の中で「ノデ型中止文」の使用率は27.9%であり、「カラ型中止文」の使用率は32.8%である。これらは「ケド型中止文」の使用率23%を上回る比率で使われている。日本語の接続助詞「ノデ」「カラ」は、次の例4と例5のように、後続節を省略して、理由表現マーカ―中止文の形でよく使われ、断り談話の和らげや断り表現の簡略化に有効な働きをする。

例4

H: すみません 今ちょっといいですか?
⇒ J M18: すみません 今忙しい んで…

例5

H: でも内容簡単だし そんなに時間取らせないって言ってたよー。
⇒ J F24: うんーやっぱりでも 今は時間がないから…

例4、5のような「ノデ型中止文」「カラ型中止文」は、「駄目です」「無理です」のような直接的な不可表現が省略されているパターンである。不可表現が省略されていても、申し出る側と断る側の両者は「勧誘・依頼―断り」という同じ場面の中にいるので、情報の復元が可能であるという省略の前提条件は十分に満たされている。しかし、韓国語の「tt'aemune 型」「nikka 型」の場合は同じ場面の中にいるにもかかわらず、後続節が省略されるパターンで現れない。つまり、「tt'aemune 型」「nikka 型」を含む理由表現は以下のように必ず後続節を伴う。

例6

H: 집에서 할 수 있구 좋을 것 같은데…
(jibeseodo hal su isgu joeul geos gateunde…: 家でもできるしいいと思うんだけど…)

⇒KM30 : 안돼요 절대 안돼요 일단 연구에 더 관심이 있구 아르바이트도 할 수도 있지만 거기
 에 투여할 시간에 나는 입으로 하는 직업을 좋아하기 때문에 하기 힘들 것 같습니다.
 (andwaeyo jeoltt'ae andwaeyo iltt'an yeongue deo gwnsimi isgu areubaiteudo hal sudo
 isjiman geogie tuyeohal sigane naneun ibeuro haneun jigeobeul joahagi tt'aemune hagi
himdeul geos gasseumnida : 駄目です 絶対駄目です 研究にもっと時間を使いたいし
 アルバイトする時間があるなら わたしは家庭教師のようなもの がいい から それは
難しそうですね。)

例 7

H : 집에서 할 수 있구 좋을 것 같은데…

(jibeseodo hal su isgu joeul geos gateunde… : 家でもできるしいと思うんだけど…)

⇒KM18 : 근데 저 지금 다른 일도 하고 있으니까 해 보고는 싶은 거기는 했으니까 친구들에
 게 연락을 해 볼 수는 있는데 저는 좀 어려울 것 같은데…

(geunde jeo jigeum dareun ildo hago isseu nikka hae bogoneun sipeun geogineun haes-
 seunikka chingudeulege yeolragul hae bol ssuneun inneunde jeoneun jom eoryeoul geos
gateunde… : でも わたくし 今 他にやっていることもある ので やってみたく
たんですが 友達に連絡してはみますけど わたくしは ちょっと難しいかもしれない
ですけど…)

例 6 の「tt'aemune 型」の後には、「하기 힘들 것 같습니다. (難しそうですね。)」という不可
 表現が現れている。例 7 の「nikka 型」の後にも、「좀 어려울 것 같은데… (ちょっと難しいかも
 しいかもしれませんですけど…)」という不可表現が現れている。韓国語の断り談話における「tt'aemune 型」
 「nikka 型」は、必ず後続節を伴うので、「tt'aemune 型中止」「nikka 型中止」のような文は現れに
 くい。そのため、韓国語母語話者が断りの旨を和らげたり、自分の意志を簡略に伝えるためには
 「neunde 型中止文」を選ばざるを得なくなり、その分「neunde 型」の使用頻度が高くなるのであ
 る。それに対して日本語の「ノデ型」「カラ型」は「ノデ型中止文」「カラ型中止文」のようなパ
 ターンで使用できるので、「忙しいけど…」のような「ケド型中止文」を選ばなくても済む。その
 結果、「ケド型」の使用は少なくなる。このように、後続節を省略できる日本語の「ノデ型」「カ
 ラ型」と後続節を省略できない韓国語の「tt'aemune 型」「nikka 型」は、断り談話に見られる理由
 表現マーカの使用頻度に多大な影響を与えていると考えられる。

4. ウチ・ソト・ヨソにおける理由表現マーカの使用状況

本章では、ウチ・ソト・ヨソという異なるカテゴリーにおいて理由表現マーカの使用がどう
 異なるかを考察する。三宅 (1994 a : 29) によれば、従来の「内」・「外」の枠組みからの分析や日
 本人の人格構造の考察のなかではヨソのカテゴリーに対して注意が払われなかったという。本稿
 ではウチⅠ・ウチⅡ・ソト・ヨソという 4 つのカテゴリーに分けて考察を行うが、その理由は、

ヨソの категорияにおける日本人の言語行動は、ウチ・ソトのそれと異なる特徴があるにもかかわらず、これに触れた研究があまり存在しないからである⁹。

4.1. 日本語の理由表現マーカーとウチ・ソト・ヨソ

調査の結果、断り談話における日本語の理由表現マーカーはウチ・ソト・ヨソというカテゴリー間でその使用頻度に相違が認められた。分析の結果を表8と図1に示す。ウチ・ソト・ヨソの差異により、その使用頻度の違いが顕著であるのは「ノデ型」「カラ型」「シ型」「命題型」である。

まず、「ノデ型」と「カラ型」について見てみる。「ノデ」「カラ」の異同については、文法論・語彙論などの分野でしばしば取り上げられてきた。しかし、従来の「ノデ」と「カラ」に関する先行研究は語彙・文法の問題としての議論が多く、自然談話に現れる様相（場面・相手による差）が軽視されがちであった（谷部1999：139-140）。谷部（1999, 2002）は、職場における自然談話を資料とし、あらたまった場面（会議・打ち合わせ・指導など）とくつろいだ場面（休憩時や昼食時などの雑談）に見られる「ノデ」「カラ」の分析を行っている。それによれば、「ノデ」「カラ」の使用は発話相手によって現れ方に一定の傾向が見られるという。例えば、職場外の相手とのかなりあらたまった場面では、「ノデ」が多用され、接触度の比較的高い関係にある相手との非常にくつろ

いだ場面では「カラ」が多用されるという。また、「ノデ」は全般的に丁寧な文脈の中で選択されており、「カラ」は普通体発話の中で使われているという。谷部の指摘は、「ノデ」と「カラ」を文法的な観点からではなく、相手との関係および待遇表現の観点からとらえる必要性を訴えた点で興味深い。

表8 日本語のウチ・ソト・ヨソ別使用頻度¹⁰

	ノデ型	カラ型	シ型	テ型	ケド型	命題型	合計
ウチⅠ	6 6.4%	37 39.4%	18 19.1%	0 0%	5 5.3%	28 29.8%	94 100%
ウチⅡ	3 5.2%	21 36.2%	6 10.3%	2 3.4%	3 5.2%	23 39.7%	58 100%
ソト	60 77.9%	1 1.3%	1 1.3%	3 3.9%	5 6.5%	7 9.1%	77 100%
ヨソ	37 58.7%	10 15.9%	2 3.2%	0 0%	4 6.3%	10 15.9%	63 100%

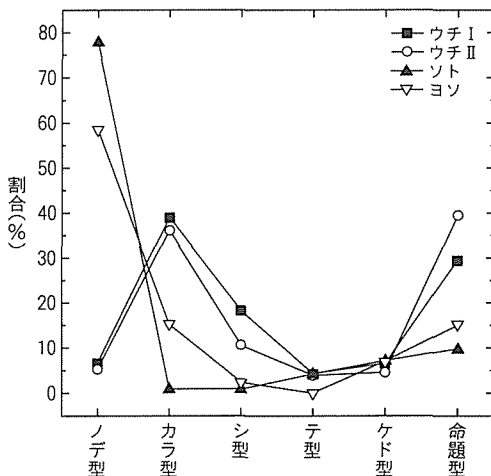


図1 日本語のウチ・ソト・ヨソ別使用率

表8と図1の結果からも、ウチ・ソト・ヨソの差異による「ノデ型」と「カラ型」の使い分けは他の理由表現マーカーの場合よりも明確に読み取れる。ウチⅠでは「カラ型」が37回（39.4%）と一番多く使われている。「カラ型」が多く使われるのは、ウチⅡに対しても同じである。ソトにおいて「カラ型」は1回（1.3%）しか使われておらず、その代わりに「ノデ型」が60回（77.9%）と圧倒的に高い使用頻

度を占めている。ヨソに対しても「ノデ型」の使用頻度は高いと言える。

以下に、J F03の談話データを引用し、ウチ・ソト・ヨソの違いによる「ノデ型」「カラ型」の使用をまとめてみる¹¹。

例8

① ウチⅠ場面

⇒J F03: ちょっと 友達と約束がある から 今日はうん…

② ウチⅡ場面

⇒J F03: すごい すごいけど やっぱ明日のことを考えると怖い から ごめん。

③ ソト場面

⇒J F03: すみません ちょっと 今日早く家に帰らなければならない んで ちょっと今日の
ところはすみませんが…

④ ヨソ場面

⇒J F03: あ#うん そうですねー ま 英会話必要だと思うけど 私もう持ってる んで ま
それでぼちぼち勉強してる んで 新しいのは必要ないです。

例8のJ F03は、理由表現を述べる際に、ウチⅠ・ウチⅡには「カラ型」を、ソトとヨソには「ノデ型」を用いて断り談話を展開している。多くの日本語母語話者はJ F03のように、相手との関係を測りつつ「ノデ型」と「カラ型」を使い分けているのである。今回の調査で得られた日本語の資料を見てみると、ウチⅠ・ウチⅡにおいては普通体が、ソト・ヨソにおいては丁寧体が使われていた。このことは、「ノデ」と「カラ」の選択に待遇上の配慮がかかわっており（谷部1999：145-146）、「ノデ」は基本的に丁寧体を用いる相手との発話に現れる（谷部2002：138）といった指摘とも一致する。しかし、ヨソ場面では、丁寧体が使われているにもかかわらず、「ノデ型」と「カラ型」とが混在する例が少なくなかった。これは、相手の面子を配慮する意識ときっぱり断りたい意識が共存するためであると考えられる。次の例9における2つの例でもそういう意識の反映がうかがえる。

例9 ヨソ場面

H: 最新式なんで なかなか手に入らないと思うんですけど…

① ⇒J M04: でももう英会話もっている から いいです。

② ⇒J F06: まあー でも英会話のカセットテープでー 練習するというのは それでも今持っ
ているテープで十分だと思ってます からー すみません 私はちょっと…

ここでJ M04とJ F06は、丁寧体を使っているものの、2人とも「カラ型」を用いている。このようなパターンはヨソ場面の特徴である。他のカテゴリーには、ソト場面で「J F06: うんーでもここで体調崩すとあれなんです から…」という例が1例見られるだけである。

次に、断り談話における「命題型」について述べる。「命題型」を用いると、「JM14: いや面倒くさい。」のように断りたいという気持ちはより明確に伝わる。しかし、他の理由表現マーカ―を使用した文に比べ、唐突な印象は避けられない。「命題型」は気のおけない関係であるウチⅠ・ウチⅡと人間関係を保つ必要がないヨソにおいてはよく見られるものの、ソトにはあまり見られない。上で述べた「ノデ型」「カラ型」ほどではないが、「命題型」からも日本語母語話者の対人関係調節が言語に反映されている一面をうかがうことができる。

最後に「シ型」について述べる。断り談話における「シ型」は理由を重ねて述べる時に有効であると言えよう。藤森(1995)は日本語では理由をいくつも並べて断るのは言い訳がましさが強くなると指摘しているが、ウチⅠのカテゴリーでは他のカテゴリーにおけるより言い訳を重ねて述べるストラテジーがしばしば見られる。次の例10を見てみよう。

例10 ウチⅠ場面

H: たまにはいいじゃない? おごるから行こうよー。

⇒ J F07: たまにっっても外で食べたらお金かかる [シ]ー えー {笑い} うんー 昨日買ってきた肉まんとか残ってる [シ] それ食べるから…

ここでJ F07はウチⅠに「シ型」を用いて断り談話を展開している。例10のように「シ型」は「外で食べたらお金かかるし」「肉まんとか残ってるし」など、似通った理由表現を述べるため、断り談話が長くなりがちである。「シ型」がウチⅠ・ウチⅡ場面ではよく使われるものの、ソトとヨソ場面では使用頻度が少なくなるのはこのような「シ型」の働きとも関係すると考えられる。

以上の結果は、相手がウチⅠ・ウチⅡ・ソト・ヨソのいずれに属するかによって理由表現の型と使用頻度が異なることを意味する。

4.2. 韓国語の理由表現マーカ―とウチ・ソト・ヨソ

表9 韓国語のウチ・ソト・ヨソ別使用頻度

	tt'aemune 型	nikka 型	go 型	seo 型	neunde 型	命題型	合計
ウチⅠ	2 1.9%	6 5.8%	23 22.3%	7 6.8%	38 36.9%	27 26.2%	103 100%
ウチⅡ	3 5%	1 1.7%	7 11.7%	8 13.3%	20 33.3%	21 35%	60 100%
ソト	2 2.8%	0 0%	16 22.5%	19 26.8%	27 38%	7 9.9%	71 100%
ヨソ	3 5.6%	2 3.7%	11 20.4%	9 16.7%	20 37%	9 16.7%	54 100%

韓国語の断り談話における理由表現マーカ―の使用頻度は、ウチ・ソト・ヨソというカテゴリー間では日本語ほどの差はない。分析の結果を表9と図2に示す。

韓国語にはウチ・ソト・ヨソの差異による理由表現マーカ―の相違点も見られるものの、共通する点も多く見られる。そこで、ウチ・ソト・ヨソのカテゴ

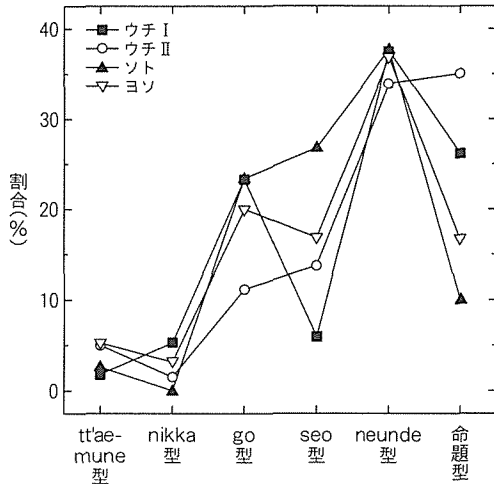


図2 韓国語のウチ・ソト・ヨソ別使用率

リーに共通して観察された点を取り上げてから、相違点を取り上げることにする。まず、ウチ・ソト・ヨソにおける共通点を述べる。ウチ・ソト・ヨソに一番多く観察されたのは「neunde型」である。「neunde型」は、ウチIの関係で38回(36.9%)、ウチIIの関係で20回(33.3%)、ソトの関係で27回(38%)、ヨソの関係で20回(37%)であり、いずれも理由表現マーカー使用の3割以上を占めている。以下に、「neunde型」の具体例を挙げる。

例11

① ウチI場面

⇒KF06: 저 지금 배 별로 안 고티네요...

(jeo jigeum bae byeolro an go peundeoyo...: わたくし今 お腹あまり空いてないんです けど...)

② ウチII場面

⇒KM05: 스ㅡ스ㅡ별로 안 팽기네데...

(seu-seu-byeolro an tt'aengi neunde...: あーあーあんまり気が進まない けど...)

③ ソト場面

⇒KM08: 죄송합니다 제가 선약이 있네데요...

(joesonghamnida jega seonyagi in neundeoyo...: 申し訳ないです わたくし先約があるんです けど...)

④ ヨソ場面

⇒KF04: 아니 저 집에 좋은 거 있네데...

(ani jeo jibe joeun geo in neunde...: いいえ わたくし家にいい物持っています けど...)

例11の文末語尾に「neunde型」が用いられている。「neunde型」を見る限り、ウチ・ソト・ヨソに区別は認められない。これは「neunde型」が言語形式としてパターン化されていることによるものである。韓国語にウチ・ソト・ヨソの区別意識が強くないことは、「tt'aemune型」「nikka型」「go型」の使用頻度にそれほど差がないことにも現れている。但し、「seo型」の使用においてはやや違いが見られる。

次に、「seo型」はソト場面で19回(26.8%)使われており、その使用頻度はウチI(7回, 6.8%)・

ウチⅡ (8回, 13.3%)・ヨソ (9回, 16.7%) より多く使われている。이 (Lee) (2002) が言っているように、「seo型」は前節の内容を聞き手に察してもらい、さらに後続節の内容を聞き手に納得しやすくさせる機能をもつ¹²。そこで「seo型」は、理由節の状況が分からない聞き手に対して使うのに適している。例12, 13に「seo型」の例を挙げる。

例12 ウチⅠ場面

⇒KF16: 언어에 별로 자신이 없어[서] 하면 욕 먹을 테니까 나는 안 할래요.

(eoneoe byeolro jasini eop'sseo [seo] hamyeon yong meogeul tenikka naneun an hal-raeyo. : 外国語があまり得意じゃなく[て] 私がしたら相手にきつと何か言われるから私はしません。)

例13 ソト場面

⇒KM22: 선생님 저 속이 별로 좋지 않아[서] 먹으러 가기가 좀 그렇네요 다음에 같이 하죠?

(seonsaengnim jeo sogi byeolro jochi ana [seo] meogeureo gagiga jom geureoneyo daeume gachi-hajyo? : 先生 わたくしお腹の調子がよくなく[て] 食べに行くのはちょっとあれなんですけどまた今度どうでしょうか?)

上で述べた이 (Lee) の主張を断り談話に適用してみる。例12のKF16が「外国語が得意じゃないこと」と例13のKM22が「お腹の調子がよくないこと」はいずれも新情報である。従って、断る者は断る理由を申し出る者に納得してもらい、それから会話を進めた方が相手に対して丁寧さを表すことができる。この点から考えると「seo型」は、「tt'aemune型」「nikka型」「命題型」に比べ、相手配慮と丁寧度の高い表現であると言えよう。「seo型」の使用頻度がソト場面で一番多く見られるのはこれに原因があると考えられる。

最後に、ウチ・ソト・ヨソによる使用頻度の差がもっとも著しい「命題型」について見てみる。「命題型」は「ウチⅡ→ウチⅠ→ヨソ→ソト」の順番で多用されている。ソト場面に「命題型」の使用がもっとも少ない理由はストレートな断り表現を避けるために、「seo型」「go型」と「neunde型」に使用頻度が集中していることと関係する。

例14 ウチⅠ場面

H: ○○야 오늘 외식 어때?

(○○ya oneul oesik eott'ae? : ○○ちゃん 今日 外食どう?)

⇒KF09: 귀찮다. ([gwichanta]. : 面倒くさい。)

例15 ソト場面

H: ○○군 지금 식사 가려는 참인데 함께 어떨까?

(○○gun jigeum siksa garyeoneun chaminde hwamkke eott'eonga? : ○○君 これ

からお食事に行くんだけど 一緒にどう?)

⇒KM28 : 아-저 약속이 있어가지 구요…

(a-jeo yaksogi isseogaji guyo… : あーわたくし約束がありました て…)

例14のような「命題型」は、例11に示した文末語尾「neunde 型」や例12, 13の「seo 型」、例15の「go 型」¹³ よりストレートでぶっきら棒な印象を与え、使い方を間違えると相手に不快感を与えかねない。

韓国語の理由表現のうち、対人関係を調節する機能を持つのは「seo 型」と「命題型」である。「go 型」「neunde 型」にウチ・ソト・ヨソを弁える意識が大きく目立たないのは、人間関係をあやうくする恐れがないためであろう。韓国語母語話者がウチ・ソト・ヨソを明確に弁えるのは「seo 型」と「命題型」を用いる場合であり、他の理由表現マーカールにおいてはその種の意識の反映はあまり見られない。

5. 理由表現マーカール中止文とウチ・ソト・ヨソ意識

3.3. では、理由表現マーカールで言いさす文を作る機能の有無が理由表現マーカールの選択と頻度にも影響を与えていることが確認された。本章では、理由表現マーカール中止文だけを取り上げ、ウチ・ソト・ヨソ意識が日韓の理由表現マーカール中止文にどう影響するかを探ってみる。

5.1. 日本語の理由表現マーカール中止文

熊井 (1993 : 27-28) は、日本人学生と留学生の断り談話行動を比較調査して、日本人学生は留学生に比べ、すべての相手に対して言いさす文を多用し、その談話パターンはソフトな言いさしによって事情を相手に察してもらおうとするものが多いと述べている¹⁴。それは、熊井が言うように、「今日は忙しいんで無理です。」と文を言い切るより「今日は忙しくて無理なんで…」といった言いさす表現を使うほうがソフトな印象を与えるからであろう。また、もっとも相手にソフトな印象を与えるためには、不可表現で終わる文より「今日はちょっと忙しいんで…」のように理由表現で言いさす文のほうが相手の共話¹⁵を導きやすいからであろう。

日本語の総ターン数394の中に、理由表現マーカールを含む文は211文 (理由表現マーカールは292例) あった。理由表現マーカールを含む文のうち、理由表現マーカール中止文は61例 (28.9%) である。ここではまず、日本語の理由表現マーカール中止文が、ウチ・ソト・ヨソのカテゴリーでどのように現れるかを見てみる。日本語における理由表現マーカール中止文の詳しい使用内訳は表10の通りである。また図3は、各カテゴリーに現れる理由表現マーカールを含む文に対する理由表現マーカール中止文の割合を示したものである。

表10 理由表現マーカ-中止文の使用内訳（日本語）

	ノデ型 中止文	カラ型 中止文	シ型 中止文	テ型 中止文	ケド型 中止文	中止文 合計(= a)	理由表現マーカ- を含む文(= b)	a / b ×100
ウチ I	1	12	6	0	4	23	53	43.4%
ウチ II	0	4	2	1	1	8	54	14.8%
ソト	6	1	0	1	5	13	67	19.4%
ヨソ	10	3	0	0	4	17	37	45.9%

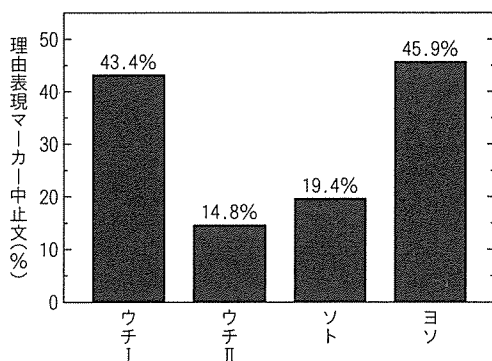


図3 日本語のウチ・ソト・ヨソ別理由表現マーカ-中止文

日本語において理由表現マーカ-中止文が一番多く用いられるのはヨソ関係であるが、ウチ I 関係との差は小さい。ソト関係における理由表現マーカ-中止文の使用頻度はそれらを下回っている。これを簡略に示すと「ヨソ→ウチ I →ソト→ウチ II」の順番になる。

生駒・志村 (1993) は、アメリカ人日本語学習者の日本語による断り談話の中に英語から日本語へのプラグマティック・トランスファーがあるかどうかを調べている。そして、とりわけ有害なトランスファーとして、「話し相手の地位によって中途終了文の使用頻度をあまり変えることなく、直接的な断りを多用すること」を挙げている。一方、日本語母語話者は、相手の地位が自分より高い場合には、そうでない場合より「中途終了文」を好む傾向があることを指摘している。熊井と生駒・志村の調査結果は、文を最後まで言い切らない中止文一般に関するものであり、中止文一般が日本語の断り談話において有効な働きをしていることを示唆している。

この調査結果によると、本稿の場合、ウチよりソトの関係で、中止文が多く現れることが予想される。しかし、本稿においてウチ I とヨソのカテゴリーを対象にして、理由表現マーカ-中止文を検討してみたところ、少なくとも理由表現マーカ-中止文については、先行研究で言われているのとはいささか異なる事実のあることが判明した¹⁶。次の例16, 17を見てみよう。

この調査結果によると、本稿の場合、ウチよりソトの関係で、中止文が多く現れることが予想される。しかし、本稿においてウチ I とヨソのカテゴリーを対象にして、理由表現マーカ-中止文を検討してみたところ、少なくとも理由表現マーカ-中止文については、先行研究で言われているのとはいささか異なる事実のあることが判明した¹⁶。次の例16, 17を見てみよう。

例16 ウチ I 場面

H: 近所の人にアルバイトのお仕事を頼まれているんだけど それがA 4用紙 1枚千円の翻訳の仕事なのね で ○○ ちょっとやってもらえないかと思うんだけど…
 ⇒ J M10: あーちょっとあの一机の上でガリガリする仕事したくないから…

例17 ヨソ場面

H: 英会話の最新教材をお勧めしているんですけど とてもお役に立つと思うし 今お買い得だと思うんですけど…

⇒ J F03: うん そういう興味ない んで…

例16のウチ I 関係における「カラ型中止文」と例17のヨソ関係における「ノデ型中止文」を見ると、相手に共話を求めたり、察しを求めているとは言いにいく、できる限り簡略に断りの旨を伝えようとしている。断り談話において後続節を省いても断る旨が伝わるならば、厄介な場面に遭遇した者が断りのストラテジーとして理由表現マーカー中止文を用いるのは当然のことであろう。しかし、ヨソに対して「カラ型中止文」より「ノデ型中止文」をよく用いるのは、簡略な断りの言語行動をとりながらも、ある程度の丁寧さを保とうとする意識の反映であると考えられる。

ウチ I とヨソ関係に比べ、ソトにおける理由表現マーカー中止文の使用頻度が少ない理由は、例18のように理由表現の後続節に謝罪や今後の約束などが述べられる場合が多かったためである。例18は言い切る文であるが、上記の例16、17の理由表現マーカー中止文より丁寧さが感じられる。

例18 ソト場面

H: ○○君 今から食事に行くんだけど 一緒に行かない?

⇒ J M11: あのー今日は用事があります んで すみませんけど また今度お願いします。

日本語の理由表現マーカー中止文は、ウチ・ソト・ヨソというカテゴリーの違いによって使用頻度が異なる。しかし、理由表現マーカー中止文の使用頻度とウチ・ソト・ヨソの違いとの間に、単純な相関関係らしきものは見られない。図3と例16～18からも分かるように、日本語のウチ・ソト・ヨソ意識は、理由表現マーカー中止文を使用するかどうかではなく、どのような理由表現マーカーで断り談話を終了するか、あるいはどのような内容で断り談話を構成するかに反映されると言えよう。

5.2. 韓国語の理由表現マーカー中止文

渡辺・鈴木 (1983: 99) も言っているように、言いさし表現は日本語だけではなく韓国語にもあり、その用法も日本語に類似した点がある¹⁷。韓国語の総ターン数385の中に、理由表現マーカーを含む文は264文（理由表現マーカーは288例）あった。理由表現マーカーを含む文のうち、理由表現マーカー中止文は86例（32.6%）である。その比率は日本語の61例（28.9%）より高い。さてここでは、韓国語において理由表現マーカー中止文がウチ・ソト・ヨソのカテゴリーにどう現れるかを見てみる。韓国語における理由表現マーカー中止文の詳しい使用内訳は表11の通りである。また図4は、各カテゴリーに現れる理由表現マーカーを含む文に対する理由表現マーカー中止文の割合を示したものである。

表11 理由表現マーカー中止文の使用内訳（韓国語）

	tt'aemune 型中止文	nikka 型 中止文	go 型 中止文	seo 型 中止文	neunde 型 中止文	中止文 合計(= a)	理由表現マーカー を含む文(= b)	a / b ×100
ウチ I	0	0	1	0	17	18	79	22.8%
ウチ II	0	0	2	1	16	19	64	29.7%
ソト	0	0	3	4	22	29	81	35.8%
ヨソ	0	0	1	1	18	20	40	50%

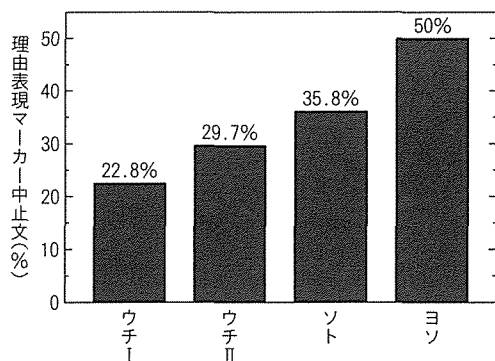


図4 韓国語のウチ・ソト・ヨソ別理由表現マーカー中止文

韓国語では「neunde 型中止文（日本語の「ケド型中止文」に相当）」が好まれる。

韓国語において理由表現マーカー中止文がもっとも多く用いられるカテゴリーはヨソ関係であり、その次に多いのがソト関係である。ウチ I とウチ II 関係における理由表現マーカー中止文の使用頻度はそれらを下回っている。これを簡略に示すと「ヨソ→ソト→ウチ II→ウチ I」の順番になる。

理由表現マーカー中止文がヨソ関係に一番多く見られるのは日本語の場合と同じであり、またその原因も断りの簡略化に重点

例19 ヨソ場面

H: 저—중앙대학교 학생이시죠? 여기 영어교재를 갖고 나왔는데 한 번 보시죠?

(jeo—Chungangdaehakkkyo hakssaengisijyo? yeogi yeoogyojaereul gaskko nawan neunde han beon bosijyo? : あの—中央大学の学生さんですね 英会話教材をお勧めしているんですけど どうですか?)

⇒KM01: 저 별로 관심이 없 거든요 …

(jeo byeolro gwansimi eop' geodeunyo … : わたくしあまり関心がないんです けど …)

例20 ヨソ場面

⇒KF03: 저 회화테입 있는데요 …

(jeo hoehwateip in neundeyo … : わたくし会話のテープあるんです けど …)

例19のKM01の発話では存在詞の語幹に「geodeunyo」が、例20のKF03の発話では存在詞の語幹に「neundeyo」が付加されている。本稿ではこの2つをまとめて「neunde 型」として扱っているが、「neundeyo」より「geodeunyo」のほうが自分の意思を主張する度合いがやや強い。ヨソに対し「neundeyo」(6例)より「geodeunyo」(12例)のほうが好まれるのは、ある程度の丁寧さ

を保ちながらも自分の意思をはっきり、また簡略的に示そうとするからであろう。

ソトの категорияにおける韓国語の理由表現マーカー中止文は日本語(20.9%)の2倍近く(35.8%)見られる。特に「neunde型」が多く使われているが、これは話し手が自分の話を言い切らないことによって聞き手に察してもらおうとするからであろう。ソト場面において「neunde型」は27例が見られたが、そのうち22例は理由表現マーカーで終わっている。つまり、ソトに対しては例21のような理由表現マーカーで終わらない文よりは、例22, 23のような理由表現マーカーで言いさす文のほうが多く用いられる。

例21 ソト場面

⇒KM07: 조건은 괜찮기는 하지만 제가 잘 할 수 있을 지 모를 것 같거든요 다른 사람에게 부탁하시는게 조건은 괜찮지만 저에게 번역일은 잘 안 맞는 것 같은데 죄송합니다.
(jokkeoneun gwaenchankineun hajiman jega jal hal ssu issseul ji moreul geos gaskkeodeunyo dareun saramege butakhasineunge jokkeoneun gwaenchanchiman jeoeg beonyeokireun jal an manneun geos gateunde joesonghamnida. : 条件はいいと思いますが わたくしの実力でできるかどうか分かりませんが 他の人に頼んだほうが 条件はいいですが わたくしに翻訳は向いていないと思います けど 申し訳ありません。)

例22 ソト場面

⇒KM10: 죄송합니다 제가 선약이 있 는데요 ...
(joesonghamnida jega seonyagi in neundeyo ... : 申し訳ありません わたくし先約があるんです けど ...)

例23 ソト場面

⇒KF03: 번역 어—저 오히려 저기 앉아서 제가 번역 잘 할 지 모르겠 는데 ...
(beonyeok eo—jeo ohiryo jeogi anjaseo jega beonyeok jal hal ji moreugen neunde ... : 翻訳—あ—わたくし あの ちゃんと翻訳ができるかどうか分かりません けど ...)

例21のKM07は「neunde型」を挿入し、断る理由を示してから相手の意に添えないことに対して謝っている。例22のKM10と例23のKF03は「neunde型」を用い、そのまま文を終えている。3つのいずれの例からも無礼さは感じられない。但し、例22, 23は文を途中で終えることによって相手に判断を委ねている印象を与える。「neunde型中止文」にこのような長所があるならば、これがソト・ヨソに対する無難な断り方として用いられやすいのは当然のことであろう。

ウチI・ウチIIに理由表現マーカー中止文が他のカテゴリーに比べて少ないのは、言い切る文である「命題型」が多かったことと、親しいから言えるさまざまなパターンが現れたためである。

6. おわりに

日本語と韓国語の断り談話における理由表現マーカ―を比較した結果、次のことが明らかになった。

- (1) 日本語の場合、「ノデ型・カラ型」は多く使われるが、韓国語では日本語の「ノデ型・カラ型」に相当する「tt'aemune 型・nikka 型」はあまり使われない。この結果は、断り談話における後続節の省略ができるかどうかと関係する。
- (2) 日本語の理由表現マーカ―は、ウチ・ソト・ヨソというカテゴリー間でその使用頻度に相違が見られる。ウチには「カラ型」「シ型」「命題型」が、ソトとヨソには「ノデ型」が多く用いられる。韓国語では、ウチ・ソト・ヨソを区別しないで「neunde 型」が多用される。韓国語でウチ・ソト・ヨソの区分が明確になされるのは「seo 型」と「命題型」である。
- (3) 日本語の理由表現マーカ―中止文は、ウチ・ソト・ヨソというカテゴリーの違いによって使用頻度が異なるものの、単純な相関関係にあるわけではない。日本語のウチ・ソト・ヨソ意識は、理由表現マーカ―中止文を使用するかどうかではなく、どのような理由表現マーカ―で断り談話を終了するか、あるいはどのような内容で断り談話を構成するかに反映される。これに対して韓国語のウチⅡ・ソト・ヨソ場面で理由表現マーカ―中止文の使用頻度が日本語をはるかに上回る理由は「neunde 型中止文」だけでも十分に聞き手に対する丁寧度と配慮を示すことができるからであると考えられる。

以上の結果は、断り談話の一部である理由表現だけを分析の対象にしたものであり、不可表現や他の表現の調査結果が上記のものとは一致するとは限らない。また、断り行動はウチ・ソト・ヨソのような自分と相手の関係以外に断る行為における妥当性、申し出の負担度、能力の有無などの変数とも関わりがある。今後の課題は、今回のロールプレイ調査の欠点を補完しつつ、様々な社会的変数に対応できる調査研究を進めて行くことである。

注

- 1 ウチ・ソト・ヨソという用語について説明しておく。土居（1971：50）によれば、「遠慮の有無は、日本人が内と外という言葉で人間関係の種類を区別する場合の目安となる。遠慮がない身内は文字通り内であるが、遠慮のある義理の関係は外である。しかしまた義理の関係や知人を内の者と見なし、それ以外の遠慮を動かす必要のない無縁の他人の世界を外と見なすこともある。」という。一方、三宅（1994 a）は、ウチとソトのカテゴリーにヨソを付け加えている。三宅（1994 a：31）は、「ウチの人間は自己のまわりの家族やごく親しい人々、ソトの人間はごく親しくないが自己やウチと関連のある人々、ヨソの人間は自己やウチとは関係がないがなにかのきっかけで関係もちえる人々（例：通行人、電車などでまわりにいる人、サービス業の人など）」と定義している。本稿でも、ウチ・ソト・ヨソの区別については三宅にならう。但し、同じ「ウチ」の領域にある人間であっても、「親」と「親しい友達」との間に場面差が存在する可能性は十分にある。これらの差を明確にするために、「親」を「ウチⅠ」と、「親しい友達」を「ウチⅡ」と細分化し

- て考察する。
- 2 ウチⅠとウチⅡをまとめてウチと表記する場合もある。
 - 3 「ノデ型」には「～んで」が含まれている。「命題型」は「形容詞と動詞の基本形」「～です」「～ます」「～んだ（～んです）」、またそれらに終助詞「よ・ね・よね」が付加されたものを示す。
 - 4 「는데 (neunde) 型」は「～는데 (neunde)」「～거든 (geodeun)」「～같아 (gata)」を含んでおり、また更に、終結補助詞「요 (yo)」が付加されるものを示す。「命題型」は形容詞や動詞の基本形、及び「～어요 (eoyo), ~아요 (ayo)」「～니다 (p'nida) ~습니다 (seumnida)」を示す。なお、日本語を韓国語に訳す場合は、できるだけ直訳につとめた。本稿では、韓国語をローマ字に表記する場合、韓国国立研究院の国語ローマ字表記法(2000.7.19改正)を基準とした。
 - 5 話し言葉では「구 (gu)」とも言う。
 - 6 本稿は、同一の相手に対する食事の勧誘と翻訳の勧めとを合わせて集計しているが、これら2つの場面に使用頻度の差がある可能性は十分にある。これについては今後の課題として残したい。
 - 7 この用語は、谷部(2002)の「から中止」「ので中止」にヒントを得ている。なお、韓国語の「接続助詞+終結補助詞요 (yo)」の形も「理由表現マーカー中止文」に含まれている。
 - 8 「忙しいんで ちょっと…」のように副詞で終わる文、「저 바쁜데요 선생님… (jeo bappeundeoyo seonsaengnim…: わたくし 忙しいんですけど 先生…)」のように代名詞で終わる文もいくつか見られたが、本稿ではこれらも「理由表現マーカー中止文」と考える立場をとる。
 - 9 韓国人のウチ・ソト・ヨソ意識を日本人と同じ枠組みの中で考察することについて一言しておきたい。両言語の間には各々のカテゴリーにおける言語行動及びその意識に多少の違いが見られる。この結果は、同じ枠組みから両言語を比較したからこそ、明確になったと考えている。三宅(1994a)には日本人と英米人のウチ・ソト・ヨソ意識を同列のカテゴリーから述べることについて説明されているが、ウチ・ソト・ヨソの定義にかなった人間の層は、英米にも存在するはずであると述べている。ちなみに、ウチ・ソト・ヨソ意識と言語行動に関する研究として、日本人とアメリカ人を対象にした井出・他(1986)、日本人と英米人を対象にした三宅(1994a, 1994b)、日本人と韓国人を対象にした任(2002, 2003)がある。
 - 10 ウチ・ソトは2つの申し出に対する断りであり、ヨソに対しては1つの申し出に対する断りである。そのため、ヨソ場面の総ターン数はウチ・ソト場面の総ターン数の半分程度である。にもかかわらず、ウチⅡ場面よりヨソ場面のほうに理由表現マーカーが多く使われている。それは、ヨソ場面における理由表現の割合が他のカテゴリーより高かったことと、理由表現マーカーがJM06とJF01によって各々10回、9回も使われていたためである。
 - 11 紙幅の都合上、例文の働きかけ文を省略する場合もある。
 - 12 이 (Lee) (2002: 143-144) は「서 (seo)」と「니까 (nikka)」を丁寧さの視点から分析している。이 (Lee) は『서 (seo)』は前節の内容を聞き手に察してもらい、さらに後続節の内容を聞き手に納得しやすくさせる機能をもつ。しかし、『니까 (nikka)』は『서 (seo)』と違って理由節と結果節が両方とも主張(強調)されるので、理由節について聞き手が周知している場合のみ使用できる。もし、理由節の状況が分からない聞き手に『니까 (nikka)』を使うと『서 (seo)』より不適切で非丁寧な印象を与える。(筆者訳)としている。
 - 13 「go型」は並列を示す機能だけではなく、日本語の「テ形」と同様の機能をする場合もある。ここでの「go型」を日本語に置き換えると「テ形」に近い表現となるが、実際には「neunde型」と同様に言いさす文の役割をする。
 - 14 熊井はおおよそ30才と60才の教官・同級生に対する断り行動を調べている。

- 15 水谷 (1983 : 43) は共話について「二者間で問い, 答えるという話しかたを『対話』というが, 互いに相互の話を完結し合う関係には, 対話というより, 『共話』とでも言ったほうが, ふさわしいのではないと思われる。共話ということばは, 筆者の作語であるが, 日本語の話し合いには, 共話の形態をとるものがかなりの割合を占めている。」と述べている。
- 16 本稿は理由表現だけを分析の対象としているため, 今後, 不可表現なども分析の射程に入れて分析を行う必要がある。
- 17 渡辺・鈴木は「理由表現マーカ―中止文」と「韓国語」をそれぞれ「いいきらない表現」と「朝鮮語」と表記している。

参考文献

- 生駒知子・志村明彦 (1993) 「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー: 「断り」という発話行為について」『日本語教育』79, 41-49, 日本語教育学会
- 井出祥子・荻野綱男・川崎晶子・生田少子 (1986) 『日本人とアメリカ人の敬語行動』南雲堂
- 伊藤恵美子 (2002) 「マレー語母語話者の語用的能力と滞日期間の関係について―勧誘に対する『断り』行為に見られる工学系ブミプトラのポライトネス―」『日本語教育』115, 61-70, 日本語教育学会
- 任炫樹 (2002) 「日韓断り談話における初出あいづちマーカ―」『ことばの科学』15, 37-63, 名古屋大学言語文化研究会
- 任炫樹 (2003) 「日韓両言語における断りのストラテジー―言語表現の違いとストラテジー・シフトを中心に―」『ことば』23, 60-77, 現代日本語研究会
- 金慶燕 (1999) 「言語使用に関する対照社会言語学的研究―日本人・韓国人・韓国人日本語学習者の否定表明を中心に―」大阪大学大学院言語文化研究科博士論文
- 熊井浩子 (1993) 「外国人の待遇行動の分析(2)―断り行動を中心にして―」『静岡大学教養部研究報告人文・社会科学編』28, 1-40, 静岡大学教養部
- 土居健郎 (1971) 『「甘え」の構造』弘文堂
- 藤森弘子 (1995) 「日本語学習者にみられる『弁明』意味公式の形式と使用―中国人・韓国人学習者の場合―」『日本語教育』87, 79-90, 日本語教育学会
- 水谷信子 (1983) 「あいづちと応答」水谷修編『話しことばの表現』37-44, 筑摩書房
- 三宅和子 (1994 a) 「日本人の言語行動パターン―ウチ・ソト・ヨソ意識―」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』9, 29-39, 筑波大学留学生センター
- 三宅和子 (1994 b) 『「詫び」以外で使われる詫び表現―その多様化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係―』『日本語教育』82, 134-146, 日本語教育学会
- 谷部弘子 (1999) 『「のつけちやうからね」から「申しておりますので」まで』『女性のことば・職場編』139-154, ひつじ書房
- 谷部弘子 (2002) 『「から」と「ので」の使用にみる職場の男性の言語行動』『男性のことば・職場編』133-148, ひつじ書房
- ラオハブナキット, カノックワン (1997) 「日本語学習者に見られる『断り』の表現―日本語母語話者と比べて―」『世界の日本語教育』7, 97-112, 国際交流基金日本語国際センター
- 渡辺吉鎔・鈴木孝夫 (1983) 『朝鮮語のすすめ―日本語からの視点―』講談社
- Beebe, L.M., Takahashi, T. & Uliss-Weltz, R. (1990) Pragmatic transfer in ESL refusals. In R.C. Scarecella, E. Anderson & S.C. Krashen (Eds.), *Developing Communicative Competence in a*

Second Language. 55-73 New York: Newbury House.

이원표 (Lee, W.P.) (2002) 「인과관계 접속표현 : 세가지 의미영역과 일관성의 성취」 (因果關係接続表現 : 3つの意味領域と一貫性の成就) 『담화분석 (談話分析)』 129-174, 한국문화사 (韓國文化社)

謝辞 : 本稿をまとめるにあたり, 指導教官である近藤健二教授をはじめ, 本誌査読者の方々および編集委員の皆様より多くの有益なご指摘をいただきました。深くお礼を申し上げます。

(投稿受理日 : 2003年6月5日)

(改稿受理日 : 2004年1月5日)

任 炫樹 (イム ヒョンス)

名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻博士後期課程

hyunsoo29@hotmail.com

Markers expressing reason appearing in refusal discourse of Korean and Japanese:

On the *uchi*, *soto*, *yoso* category

YIM Hyun soo

(Graduate Student, Nagoya University)

Key words

refusal discourse, Japanese and Korean, reason-expression markers,
uchi, *soto*, *yoso*, discontinuance-sentence

abstract

In this study, I shall compare the reason expressions appearing at the end of phrases in Japanese and Korean refusal discourse. At the end of Japanese expressions of reasons, the following styles are common: *node*-type, *kara*-type, *shi*-type, *te*-type, *kedo*-type and the proposition-type. In Korean, reason expressions often end in *tt'aemune*-type, *nikka*-type, *seo*-type, *go*-type, *neunde*-type, and the proposition type. In this study I separate the expressions in the above way and call the various expressions, 'reason-expression markers.' This study differs from other research in that I have brought in the aspect of *uchi*, *soto*, *yoso*.

Separating the problem into of *uchi* (I, II), *soto*, *yoso* I have reconsidered the kinds of reason expressions, and found that in both languages the frequency of choice of the reason marker increases according on the *uchi* (I,II) *soto*, *yoso* relationship. As for Japanese, the *uchi* (I, II) case the *kara*-type, *shi*-type, and the proposition type are most frequent, whereas in the *node*-type is used most on *soto*, *yoso* situation. On the other hand, in Korean the expression to distinguish *uchi* (I, II) *soto*, *yoso* is the *seo*-type, proposition-type. Other than that, the *neunde*-type, is the most widely used and its usage does not change frequency based on the *uchi* (I, II) *soto*, *yoso*. Although there is some difference in frequency among *tt'aemune*-type, *nikka*-type, *go*-types it is not great enough to warrant categorization.

Moreover, in discontinuance-sentence of Japanese, there is some difference in the frequency according to *uchi* (I, II) *soto*, *yoso*, but it appears without awareness. In terms of the awareness of *uchi* (I, II) *soto*, *yoso* it is not a question whether to use a marker but rather which marker to use to end the sentence is dependent on the content structure of the refusal discourse. In the case of Korean, discontinuance- sentences, reason expression markers tend to appear most in *uchi* II *soto* and *yoso* situations, and the level of frequency is much higher than in Japanese. The reason for this can be understood because the discontinuance-sentence which includes "*neunde*" conveys a more than sufficient degree of politeness in itself.